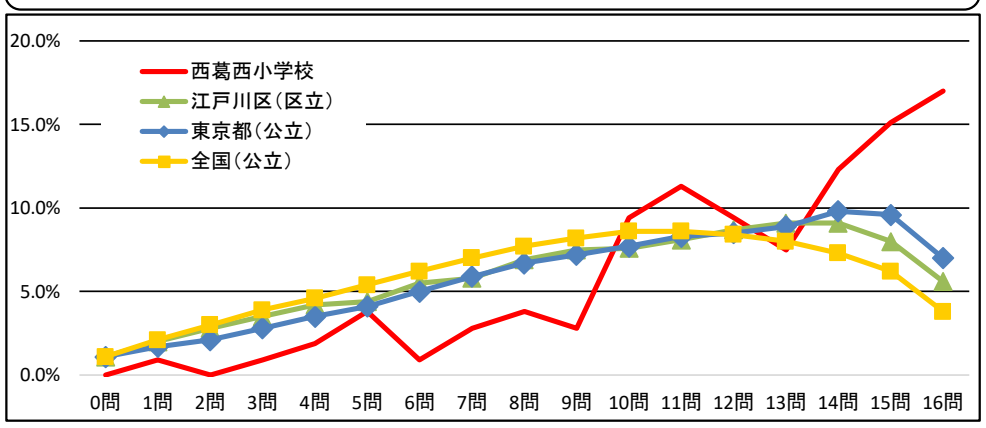
令和7年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【算数】西葛西小学校

正答数分布

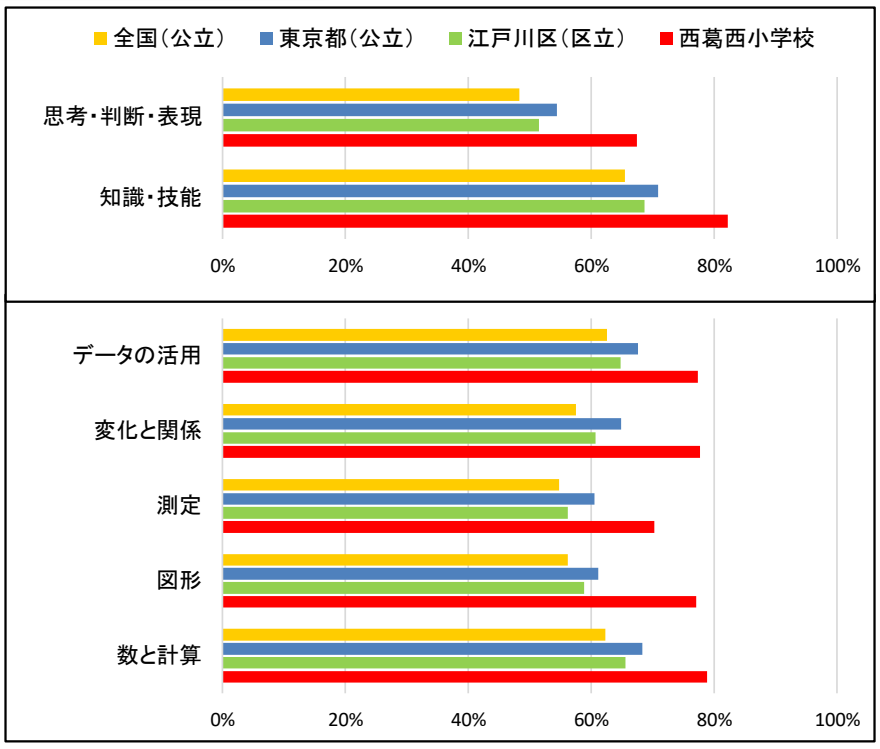
平均正答数
西葛西小学校：12.1問　江戸川区（区立）：9.8問
東京都（公立）：10.2問　全国（公立）：9.3問



【平均正答率の差】

西葛西小学校	76%
江戸川区（区立）	61%
東京都（公立）	64%
全国（公立）	58%
都との差（ポイント）	12.0

「領域別」の結果

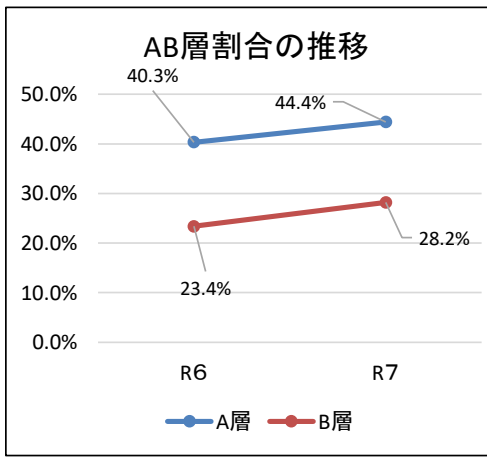


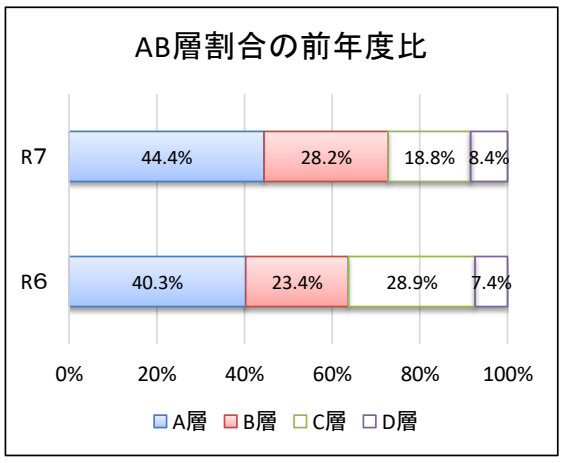
四分位における割合（都全体の四分位による）

上位 ◀――――――▶ 下位

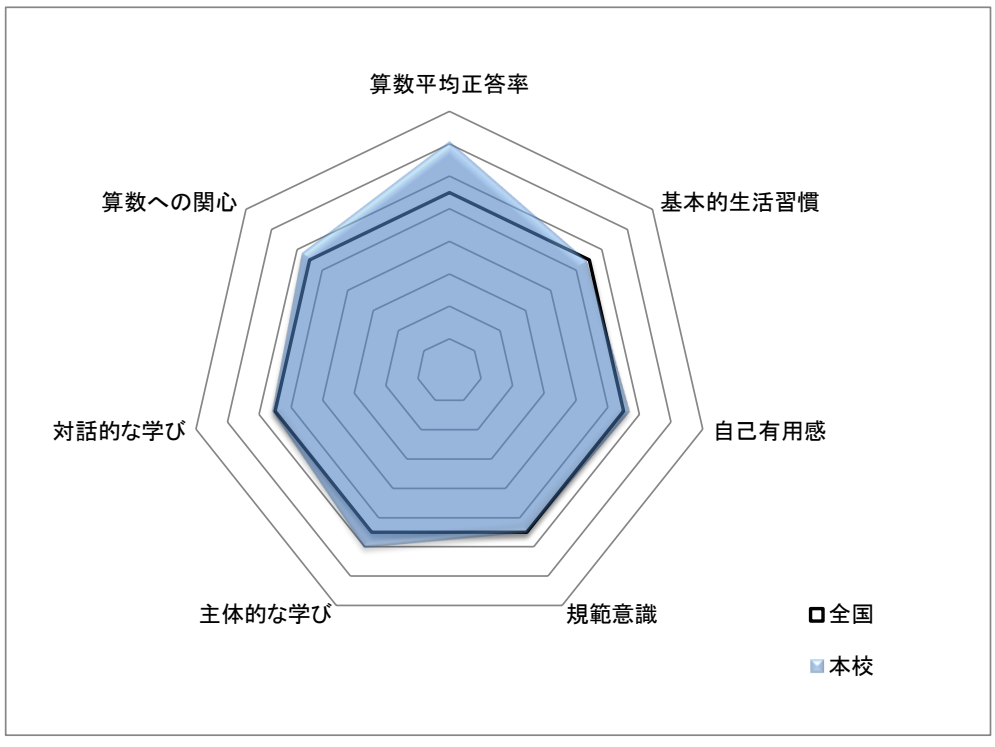
算数	A層	B層	C層	D層
	14～16問	11～13問	7～10問	0～6問
西葛西小学校	44.4%	28.2%	18.8%	8.4%
江戸川区（区立）	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都（公立）	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国（公立）	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

このチャートは、「教科調査」（国語、算数）と「児童質問調査」について、全国を母集団として本校の調査結果を表したものである。内側の太線は、全国平均を表している。青色部分が本校の調査結果である。
本校の調査結果を見ると、教科の学力と児童の学習に関する内容がともに、概ね全国平均またはそれを上回りバランスがとれていることが分かる。特に算数の平均正答率と関心が高い結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

今回の結果では、測定の領域の正答率が低かった。家庭でも苦手をなくせるように、タブレット学習を活用し、個別最適な学びを進めていきたい。家庭学習の定着度を高めるための保護者への周知や放課後補習教室などの外部機関との連携に一層力を入れていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
A層群もB層群も全国平均や都平均を大きく上回り、基礎的学力が定着していると言える。また、前年度よりもAB層の割合が約9%増えた。
（1）「算数の勉強は好きですか」（2）「算数の授業の内容はよく分かりますか」は全国と比較すると（1）＋14%（2）＋11%と共に全国より上回っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

領域別に見ると、「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」の到達度が低い。今後、自分の考えを友達と共有したり、発表したりする活動を増やし、表現する力を養いたい。「既習事項」と「新規事項」の2つの観点から児童の反応を予想し、教師の指示内容を吟味していく。

・基礎学力の保障

算数の平均正答率が76%であり、東京都と比べると+12%、全国と比べると+15%となっている。本校の児童は、学びへ向かう意欲が高く、小学校で学ぶべき学習内容を概ね身に付けていると考えられる。タブレット学習やプリント学習に取り組むことで、さまざまな傾向の問題に取り組ませ、基礎学力の定着を図っていく。

・学習習慣の確立

「学びのスタンダード」を核とし、低学年からの学習・生活習慣の定着を図っている。特に、家庭学習と連携した計画的な学習サイクルを確立させるとともに、授業では自らの考えを論理的に説明し、他者の意見を深く理解する活動を、引き続き重視していく。

・AB層の育成

3年生から行っている算数少人数指導の成果を踏まえ、AB層の育成をさらに強化する。思考力のさらなる深化と定着を目指し、少人数指導を継続・充実させるとともに、個々の理解度に応じた応用・発展的な課題への挑戦機会を増やしていく。また、タブレットを活用した協働的な学習や探究活動を取り入れることで知識を多様的に活用する力も養っていく。